

○○可汗嗣位」と記し(IV、VI、XI等)、他人の繼承に當りては「……崩後空○○可汗繼承」と記せり〔五〕(XI)、頓莫賀達干は牟羽可汗の宰相にして、可汗を殺して自立したるものなれば、「教化」なる文字と可汗の徽號との間には少くとも一個の空格を存せし外に、尙或は此の間の事情を知るに足るべき字句の存せしものならんかと思はる。

又(第二) XII 2 以下「合毗伽可汗當龍潛之時……」の合毗伽可汗は、碑題に見ゆる〔愛〕登里囉汨沒蜜施合毗伽可汗にして、唐より冊して保義可汗と爲せしものに外ならざること、次章に述ぶるが如し、而してXIの末の「登里囉羽〔錄〕沒蜜施合汨咄祿胡錄毗伽可汗繼承」と記せるものは、唐より冊して懷信可汗と爲したるものを指せるなれば〔次章〕(〔參看〕)、若し碑文の長が Schlegel 氏等の認むるが如く、現存の殘石のみにて完備せるものとすれば、碑文は可汗繼承の順位を懷信可汗より直に保義可汗に及ぼせるものと見ざる可らず、然れ共懷信可汗に繼ぎしものは勝里野合俱錄毗伽可汗にして、〔六〕之が三年間の在位の後に、初めて保義可汗の即位を見るに至りしものなること本論に於て述べたるが如し、茲に於てか 〔七〕Chavannes, Pelliot 兩氏は碑文には保義可汗の前なる合俱錄毗伽可汗を載せざれど、恐らく今日缺けたる碑の一片中には、此の可汗の名及び死が記されしものなるべしと見たり、思ふに此の碑文は歴代の可汗の名稱を擧ぐることに極めて綿密にして、忠貞可汗の如き在位僅に數月に過ぎざりしものをも、第XI行に登里囉沒蜜施俱錄毗伽可汗嗣位と記せるが如きに鑑むれば、獨り此の可汗のみを省略したるものとは見る可らず、必ず其の記されたる部分が散逸したるに相違無く、而して其の部分は實に又XI現存の文字の下に接したるものなりしこと疑無し、Schlegel 氏は七十五字を以て各行の字數と見たりしを以て XII 1 にも「前」の字を補ひ、「前に合毗伽可汗龍潛の時に當り」と讀みたれども、合毗伽可汗なる名は、其の直前XI末部に記さるゝ登里囉羽錄沒蜜施